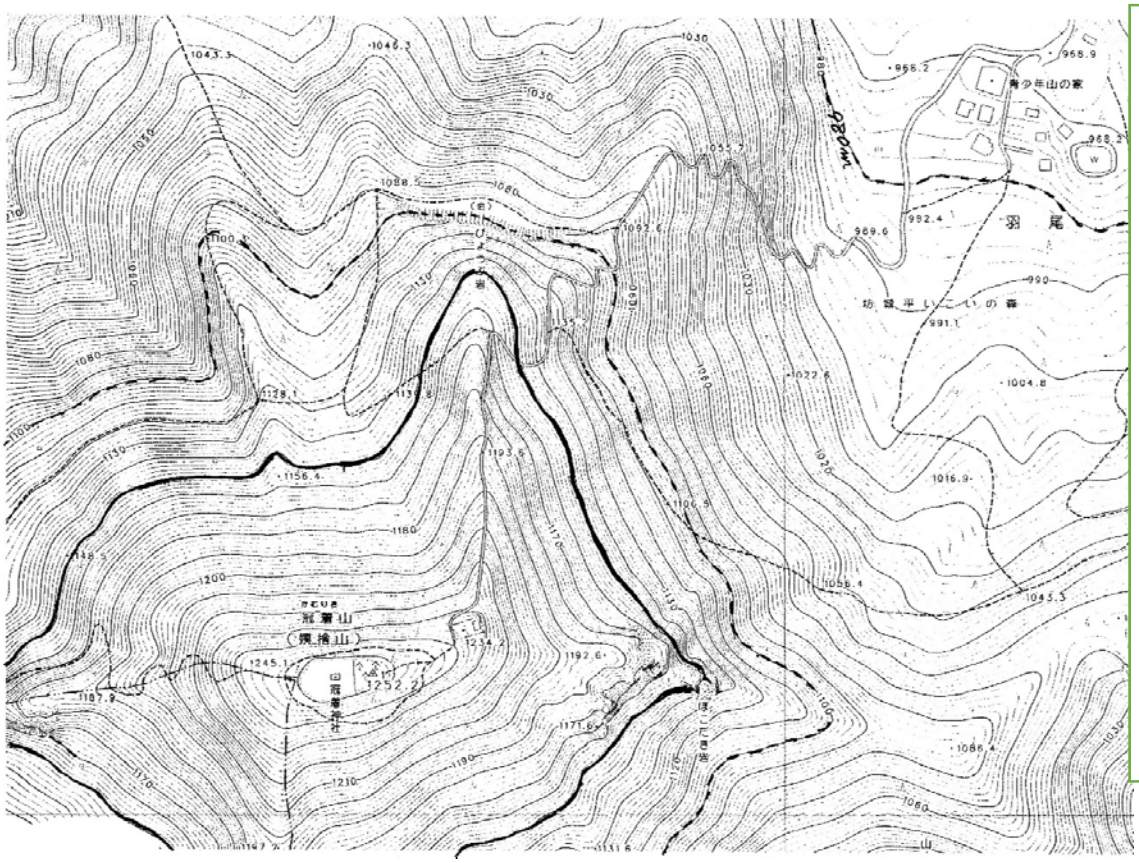
冠着山の姫蛍　**その生息範囲**　(2017 年 7/22 の調査より)



2017 年 7/22

観察会参加者

- 藤山先生の蛍会
  藤山先生他 2 名
- 更級人「風月の会」
  塚原、上水 2 名
- 長野市の文化学園高校生物クラブの生徒 7 名と顧問の先生 2 名
- 池谷ひろ子(温泉のはた屋)さんの同級生　　6 名

合計 21 名(泊り無し)

姫蛍の生息環境

気温と湿度は、姫蛍けでなく蛍の餌となる地中の昆虫にも影響してその生息環境を形成しているものと思われる。冠着山の頂上付近(標高 1.252m～1.150m)は、高原性の気象で霧も発生しやすく冷涼湿潤であることが姫ボタルの生息条件に適しているのではないかと推測される。

標高差 10m単位で気象条件が微妙に変化し、それに伴ってホタルの生息数も変化しているように思われる。

観察日時と範囲

期　日　2017 年 7 月 22 日　午後 8 時～9 時 50 分

観察範囲

① 冠着山の頂上付近のほぼ全域

② 頂上から西側の尾根筋を下る歩道沿を鳥居平駐車場まで

③ 坊城平いこいの森

観察結果

頂上(1.252m)～1.150m(西側尾根)(標高差 100mの範囲、地図上の太い実践内)は、極めて密度か高く飛翔し、高度差による変化はあまり見られなかった。1.150m付近から 10m低下する毎にホタルの数か漸減し、1.100m以下ではほとんど発見できなかった。　勿論、鳥居平駐車場(1.060m)では全く観察できなかった。よって、1.100m(地図上の点線)が生息限界と推測される。(この範囲をくまなく観察することにより実証できる)

ところが、冠着山の東尾根筋を下つた「坊城平いこいの森」一帯を観察したところ(同日 9 時 50 分)、その中の冠着十三仏付近(980m)に数匹の姫蛍が観察された。10m下の駐車場や蛙池付近では全く観察できなかった。数匹とは言え 980m付近で観察されたことは不思議である。(観察期日が 10 日程早ければ、もっと多いかも??)

ちなみに、児抱き岩付近は、標高 1.150mなので、頂上付近と同程度の飛翔が見られるものと思われる。

児抱き岩の間を飛び交う姫蛍を鑑賞してみたいものだ。姫蛍は、冠着山の祖霊神の化身とも言われている。

観察者　塚原弘昭、上水清(同日の観察者は信大名誉教授の藤山先生他多数であったが、坊城平での観察は二人)